

蹴鞠装束に関する研究（第3報）

◆ 弓削公子（大阪女子短期大学）

<目的>今回は蹴鞠装束類の中の主要な構成品でもある袴について調査し、一般のものや、他の文献のものとの比較関連について考察する。

<方法>京都国立博物館、京都府資料館、京都蹴鞠保存会館、井筒K. K（京都市）・葛布織元（静岡県掛川市）において調査を続行した。

<結果>すでに調査済みの現存する江戸～明治～大正～昭和初期における蹴鞠袴類の約8割は秋の七草の一つである「葛」を原料とした地質となっている。これはおそらく、耐日光性、耐水性、耐汗性に富む点から戸外でのスポーツ用衣料として最適と考えられたであろう。

構成面においては、水干を内側に着込むために脇明をひも下りの二分の一から三分の一に又、相引をその三分の一の寸法にしている点や腰布の前後・襠布・一巾の使用枚数など他のものとの相違点が顕著で、活動的・機能的面を優先していることが判明した。

その他、染色方法・織り手法など類似点もみられた。